

National
Parks
of Japan



資料1

2025年の全国及び 国立公園等における利用動向

2026年3月9日（月）
環境省自然環境局国立公園課

2026年以降の取組方針等の検討の進め方について

- 「2021年以降の取組方針」の当面の目標年は2025年。これまでの取組の進捗や成果、コロナ禍を経てインバウンドが急速に回復する状況、政府全体の目標も踏まえ、2030年までの目標・指標・方針を検討し、2026年以降の取組方針及び公園毎のステップアッププログラム2030を策定する。

検討の流れ・スケジュール

■ 2024年3月 第17回有識者会議

- 「2026年以降の取組方針」「ステップアッププログラム2030」等の検討着手について

↓ 2021～2024年の進捗把握、モニタリング指標・手法の検討等、見直しの方向性検討

■ 2025年3月 第18回有識者会議

- 「2021年以降の取組方針」(2021-2025) 進捗総括 (2025年目標に対する進捗・評価等)
- 「2026年以降の取組方針」(2026-2030) (骨子案) の検討
- 各公園「ステップアッププログラム2025」等 (～2025) 進捗総括 (主な取組と成果)

↓ 取組方針策定に向けた検討・調整、各公園のステップアッププログラム見直し

■ 2025年10月 第19回有識者会議

- 「2026年以降の取組方針」(2026-2030) (素案) の検討

■ 2026年3月 第20回有識者会議

- 「2021年以降の取組方針」(2021-2025) を踏まえた2025年目標に対する進捗・評価のまとめ
- 「2026年以降の取組方針」(2026-2030) (案) の検討 → 決定

検討にあたってご意見をいただきたいポイント

- 2026年以降の重視すべき考え方・取組の方向性、具体的アクション等
- プロジェクト推進のための枠組み
- 取組成果の評価指標

目次

- | | |
|------------------------------|-----|
| 1. 国立公園満喫プロジェクト 2021年以降の取組方針 | p.4 |
| 2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度 | p.7 |

1. 国立公園満喫プロジェクト 2021年以降の取組方針

国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組方針 (満喫プロジェクト有識者会議決定)

- 2016年～2020年までのプロジェクト実施により、特に8国立公園で、プロモーション、施設改修、Wi-Fi整備、多言語化等進展したが、「世界水準」のブランド力・認知度や、民間と連携した利用の質の向上は不十分。
- コロナウイルスの影響により国内外の利用者数が大幅に減少し、公園事業者の事業継続と雇用維持が課題。アウトドアレジャーやテレワークの関心高まりによる新たなライフ＆ワークスタイルの転換が見込まれる。
- 訪日外国人の今後の回復は不透明だが、現時点で2030年の政府全体目標は維持（訪日外国人6000万人）



国立公園満喫プロジェクトを以下の観点から**2021年以降も継続的に実施し、新たな展開を図る。**

基本的な方針

1 ウィズコロナ・ポストコロナの時代への対応
～ワーケーション等～

- 国内誘客の強化、地域内観光の受け皿として再構築
- ワーケーションなど国立公園の新しい利用価値を提供
- コロナ禍での安心・安全で快適に利用できる受入環境整備
- 国立公園のブランディング、多様な利用者層をターゲットにしたコンテンツ充実・情報発信
- 限定体験やキャパシティコントロールの推進による保護と利用の好循環

2 水平・垂直展開
～8公園から全公園へ～

- **全34公園の底上げ・水平展開（法改正も含む制度化検討、総合展開型・個別事業型）**
- **さらなる高みを目指した集中的な取組**による「世界水準のデスティネーション」の実現（保護と利用の好循環、上質なサービス、キラーコンテンツ、周辺地域との広域周遊、サステナブルツーリズム等）
- 先行8公園等は取組継続・成果を生かした誘客
- 国定公園・ロングトレイルの資源の活用・連携

3 これまでの基本的な視点の継続・重視

最大の魅力は自然そのもの／人の暮らし・文化・歴史を有する自然との共生の姿／「体積」で考える／幅広い利用者層に対応／広域的な視点／サステナビリティ

目標・指標

当面の目標
(～2025)

- ・ **自然を満喫できる上質なツーリズムの実現とブランド化。** そのための「質」の目標・指標の設定(延べ宿泊者数、認知度等)
- ・ 新型コロナウイルスによる影響前の**国内利用者の復活**
- ・ 訪日外国人利用者数**1000万人目標**を見据えた、**同ウイルスによる影響前の訪日外国人利用者の復活**
- ・ 取組を行う公園・地域ごとに個別の目標・指標を設定 ※政府全体目標次第で必要な見直しを検討

長期目標（～2030）政府全体目標を踏まえつつ、上記の「当面の目標」の達成状況をフォローアップする中で検討

具体的なアクション

(1) 国立公園満喫プロジェクトの制度化

- ・ 満喫プロジェクトによる適正な利用促進の取組を自然公園制度に反映（自然体験プログラムの促進、利用拠点滞在環境の上質化等）

(2) 国立公園の新しい利用など幅広いターゲットを想定した情報発信とコンテンツ造成

- ・ 国内誘客に重点を置き、「国立公園」の認知度を向上させるためのプロモーション。
- ・ ワーケーション等の新しい利用、アドベンチャーツーリズム、サステナブルツーリズム等の様々なターゲット。
- ・ 日本の国立公園の特徴・ストーリーを活かした地域内外のブランディングやコンテンツ造成。現地で活躍する人材育成。

(3) 質の高さや快適性・環境保全に配慮された体験利用の推進と保護と利用の好循環

- ・ 限定体験やキャパシティコントロールの推進、利用者負担の仕組みづくり。利用形態に応じたゾーニング（エリア分け）

(4) 利用者受入のための基盤整備

- ・ 基盤とする利用環境の整備（多言語化、トイレ洋式化等）を先行8公園以外の国立公園に展開
- ・ ビジターセンターの利用案内機能の強化と他施設との連携促進
- ・ 感染対策や自然災害に対応した安全で快適な利用施設の提供（ビジターセンター等環境整備、山小屋の施設改修等の支援検討）
- ・ 利用施設やサービス等における脱炭素・脱プラなど環境配慮型の受入環境づくり

(5) 滞在したくなる利用拠点を目指した景観の磨き上げ

- ・ 面的な利用拠点上質化、廃屋撤去。廃屋化防止のための公園事業の経営状態の把握や改善指導

(6) 官民連携の強化・広域的取組への発展

- ・ 地域の金融機関や交通機関等との連携体制構築。民間企業やDMOとの連携強化と取組の更なる発展
- ・ 複数公園・周辺観光地との広域的な周遊利用、文化・地場産品等を含めた地域一体のプログラム造成、ロングトレイルの活用

2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

2021年以降の取組方針における目標及び達成状況

- 2021年以降の取組方針において、最終年である2025年の目標を設定
- 訪日外国人利用者数・宿泊者数の目標は**概ね達成**
 - **自然を満喫できる上質なツーリズムの実現とブランド化が前進（質の指標で把握・評価）**
 - **新型コロナウイルスによる影響前の国内外の利用者が復活**

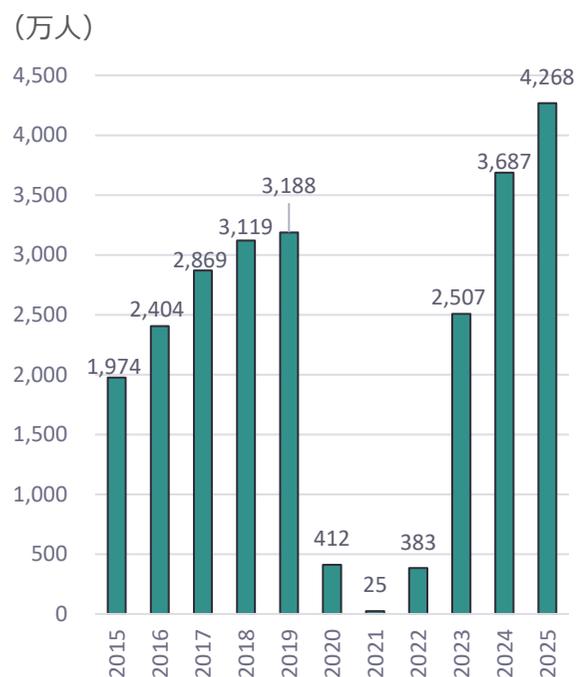
指標		目標・評価
量	国立公園における 訪日外国人利用者数 (訪日)	<p>【目標】2025年までにコロナ禍前（2019年）同等値</p> <p>【評価】2025年の訪日外国人の国立公園利用者数（988万人）は、コロナ禍前2019年を上回り（1.48倍）、目標を達成。</p> <p>【課題】回復状況は公園ごとにはばらつきが見られ、十分な回復に至っていない公園も存在する。</p>
	国立公園における 宿泊者数 (訪日・国内)	<p>【目標】2025年までにコロナ禍前（2019年）同等値</p> <p>【評価】2025年の国立公園内宿泊者数（上半期1,642万人）は2019年の約94%まで回復。</p> <p>【課題】回復状況は公園ごとにはばらつきが見られ、十分な回復に至っていない公園も存在する。</p>
質	日本全体の観光や 地方誘客に対する 国立公園の貢献度 (訪日)	<p>【目標】定量的な目標値は設定していないが、貢献度を把握することで、インバウンド全体に対する国立公園の貢献を評価</p> <p>【評価】訪日外国人の2割以上が国立公園を訪問しており、国立公園訪問者は支出額・満足度・再訪意向が高いことから、観光や地方誘客に貢献したと言える。</p> <p>【課題】混雑・渋滞や多言語対応、交通等、引き続き対応すべき課題がある。また、地方分散は十分とは言えない。</p>
	満足度 推奨意向 支出額 平均泊数 認知度 リピーター率 (訪日・国内)	<p>【目標】定量的な目標値は設定していないが、質の指標データを踏まえて、上質なツーリズムの実現とブランド化の進捗を評価</p> <p>【評価】満足度・推奨意向は高い評価を維持。日本人の支出額・リピーター率はいずれも上昇し、平均泊数は現状を維持したことから、目標の「自然を満喫できる上質なツーリズムの実現」が前進したと言える。</p> <p>【課題】一部では、増加した観光利用に伴うマナー違反の増加、受入体制不足等の課題が顕在化。「自然を満喫できる上質なツーリズムの実現とブランド化」は十分とまでは言えない。</p>

2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

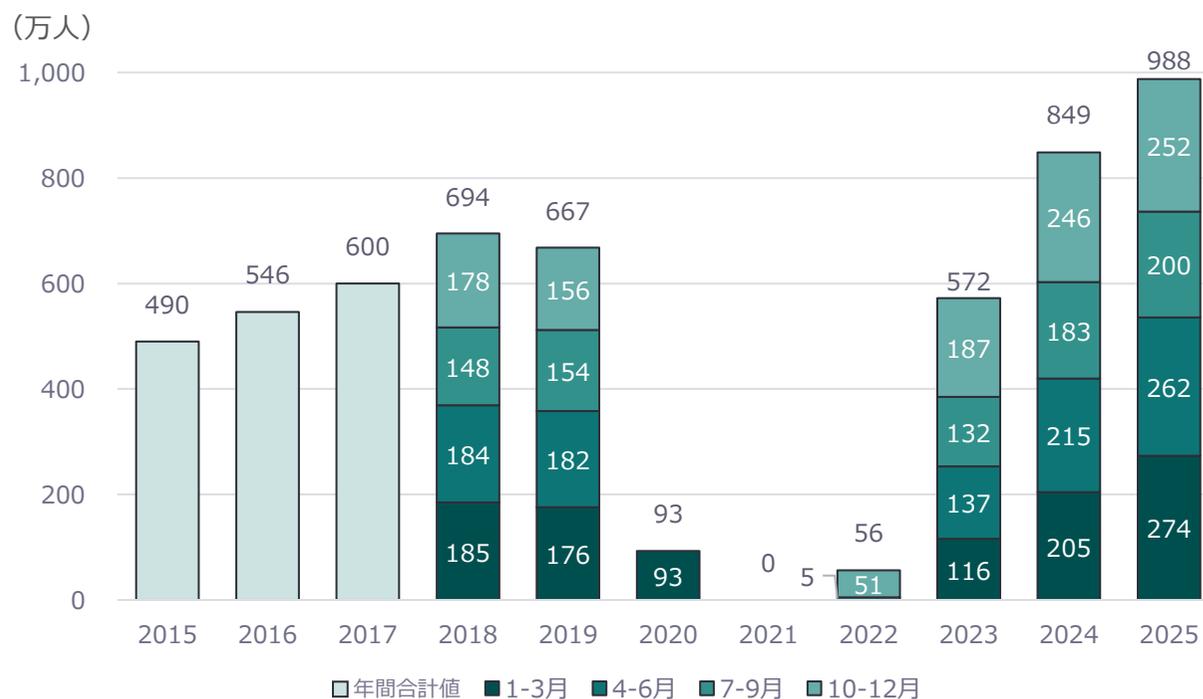
国立公園における訪日外国人利用者数

- 2025年訪日外客数は4,268万人となり、2019年の1.34倍、前年の1.16倍となった
- 2025年の国立公園の訪日外国人実利用者数（推計値）は988万人となり、2019年の1.48倍、前年の1.16倍となった

全国の訪日外客数



国立公園の訪日外国人実利用者数



※日本政府観光局（JNTO）データ 確定値：～2024年、暫定値：2025年1-11月、推計値：2025年12月

※インバウンド消費動向調査 確定値：～2024年、2次速報値：2025年1-9月期、1次速報値：2025年10-12月期
 2025年以降は、確定値による推計後、値が変動する可能性あり
 ※2020年4月-2021年9月は新型コロナウイルスの影響で未実施。2021年10月-2022年9月は限定的に実施
 ※2024年7-9月のデータより、日高山脈襟裳十勝国立公園の利用者数を追加

量の指標
質の指標

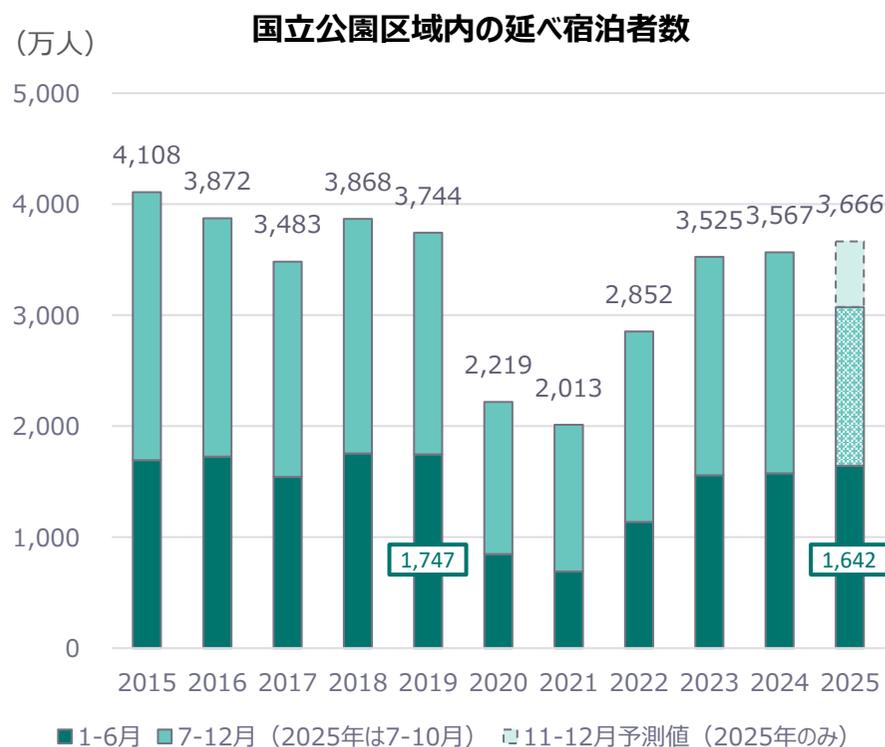
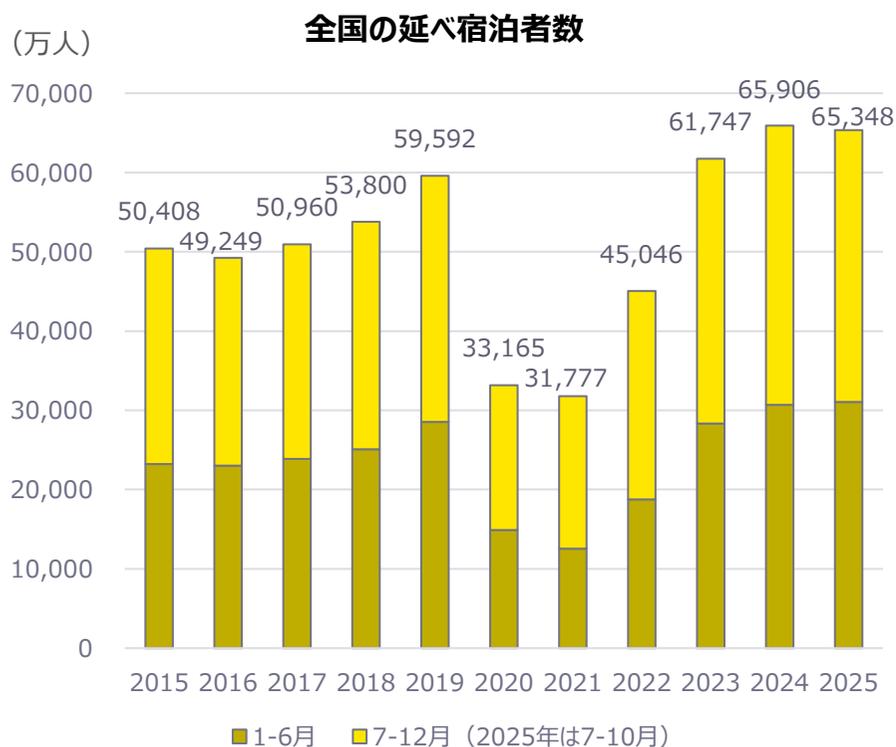
2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

国立公園における宿泊者数（～2025年10月）

■ 2025年上半期の国立公園内宿泊者数（1,642万人）は2019年の上半期（1,747万人）の約94%まで回復

量の指標

質の指標

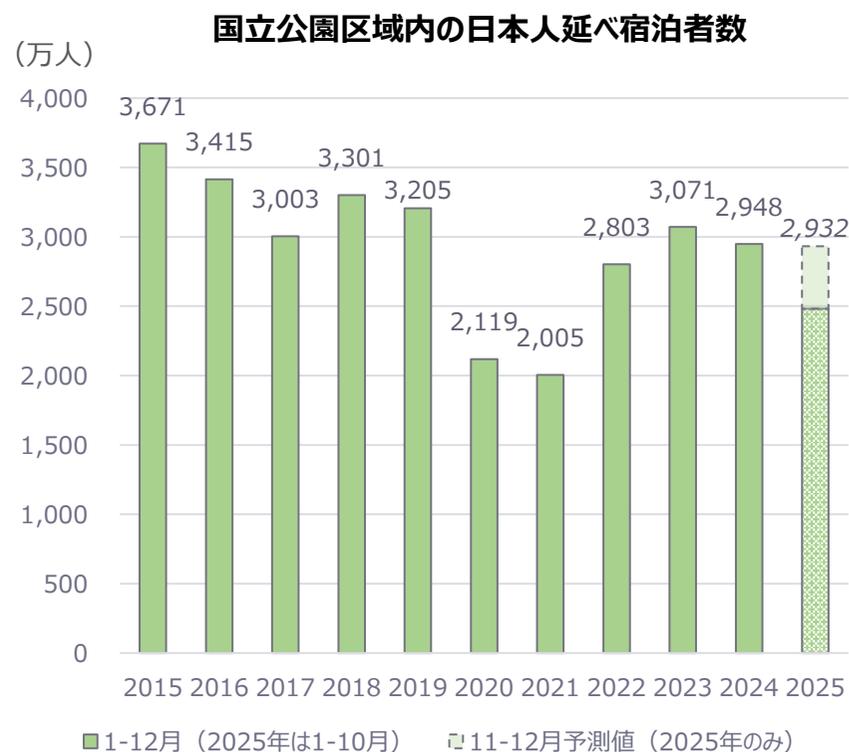
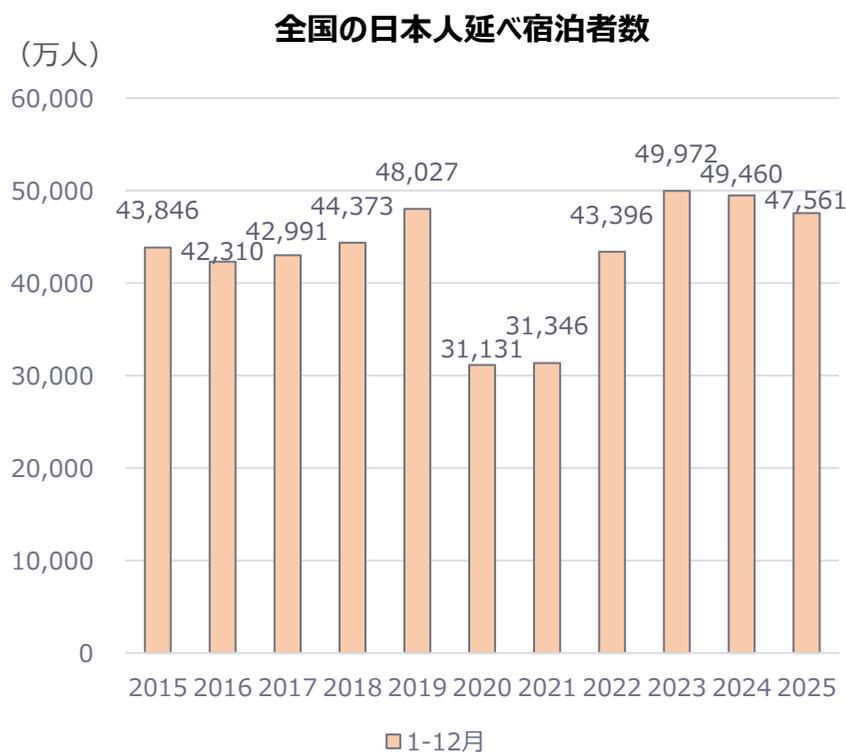


※2025年11-12月の国立公園区域内データは推計中のため、日本人・訪日外国人宿泊者数予測値を合算した値を掲載
 ※国立公園内の宿泊者数は、観光庁「宿泊旅行統計調査」の調査票情報を利用して推計
 ※2015年～2024年は、「宿泊旅行統計調査」の結果の確定値、2025年は同調査結果の速報値を使用
 ※2024年7月のデータより、日高山脈襟裳十勝国立公園の宿泊者数を追加

2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

参考：国立公園における日本人宿泊者数（～2025年10月）

■ 2025年1～10月の国立公園区域内の日本人宿泊者数は、2024年の年間値の約84%に達している



※2025年11-12月の国立公園区域内データは推計中のため、2024年11-12月推計値に2024年1-10月から2025年1-10月の増加率を乗じた予測値を掲載

※国立公園内の宿泊者数は、観光庁「宿泊旅行統計調査」の調査票情報を利用して推計

※2015年～2024年は、「宿泊旅行統計調査」の結果の確定値、2025年は同調査結果の速報値を使用

※2024年7月のデータより、日高山脈襟裳十勝国立公園の宿泊者数を追加

2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

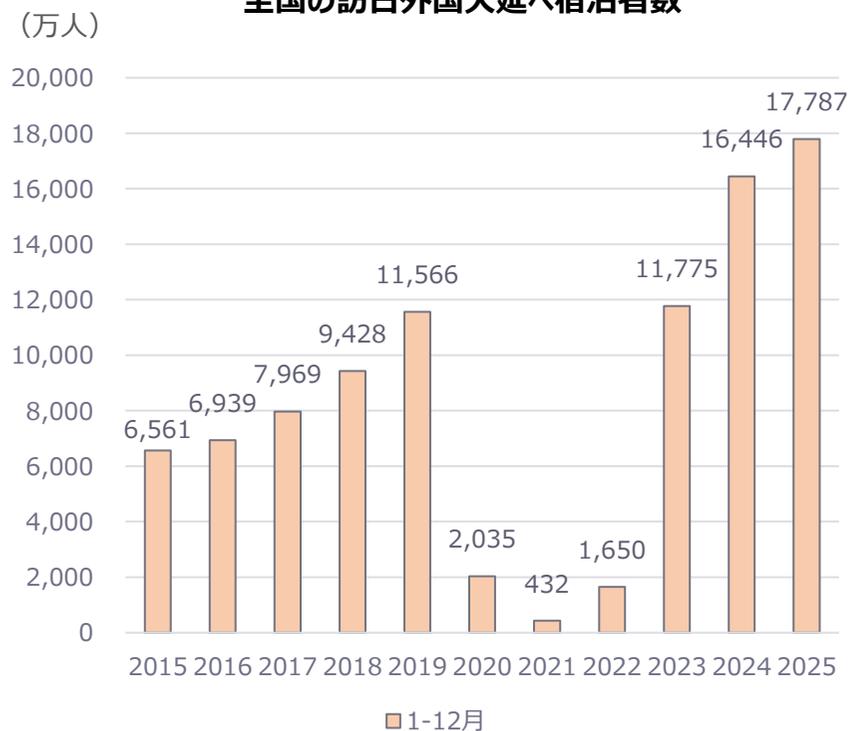
参考：国立公園における訪日外国人宿泊者数（～2025年10月）

■ 2025年1～10月の国立公園区域内の訪日外国人宿泊者数は、2024年の年間値の約95%に達している

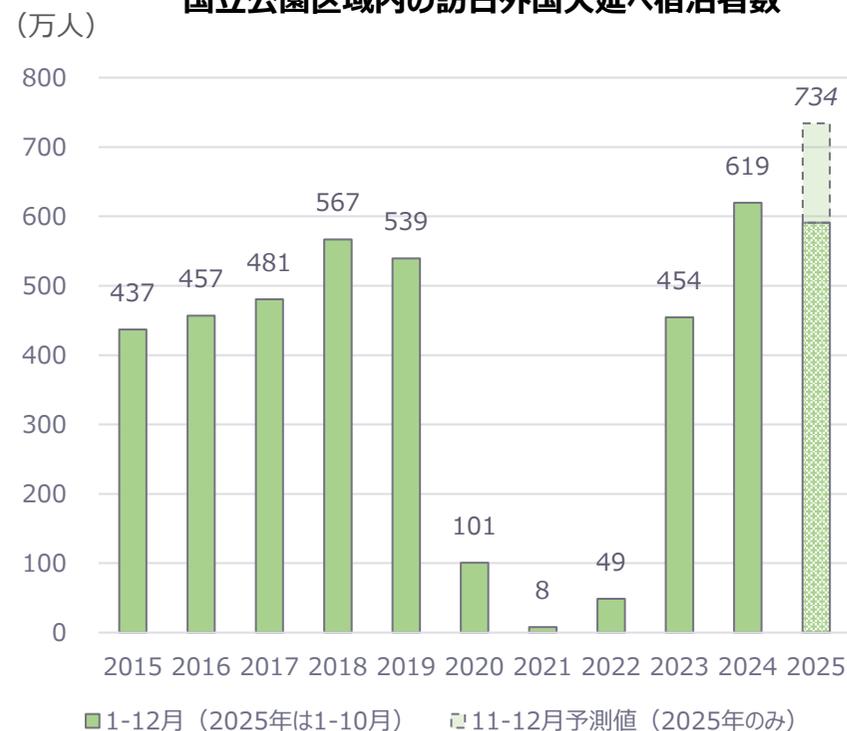
量の指標

質の指標

全国の訪日外国人延べ宿泊者数



国立公園区域内の訪日外国人延べ宿泊者数



※2025年11-12月の国立公園区域内データは推計中のため、2024年11-12月推計値に2024年1-10月から2025年1-10月の増加率を乗じた予測値を掲載

※国立公園内の宿泊者数は、観光庁「宿泊旅行統計調査」の調査票情報を利用して推計

※2015年～2024年は、「宿泊旅行統計調査」の結果の確定値、2025年は同調査結果の速報値を使用

※2024年7月のデータより、日高山脈襟裳十勝国立公園の宿泊者数を追加

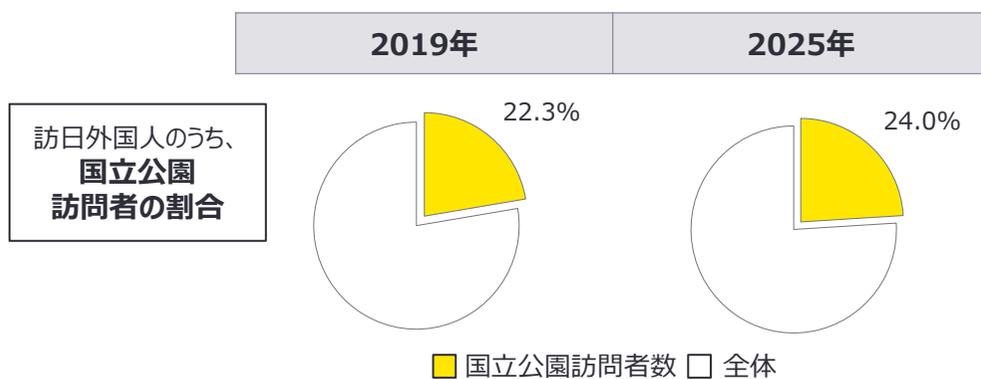
2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

貢献度調査 (1/2)

- 貢献度調査の結果、国立公園訪問者の人数・割合は上昇しており、国立公園による地方への誘客効果が確認できる
- また、国立公園訪問者の平均消費額は全体よりも高く、経済的な貢献も確認できる

地方への誘客効果

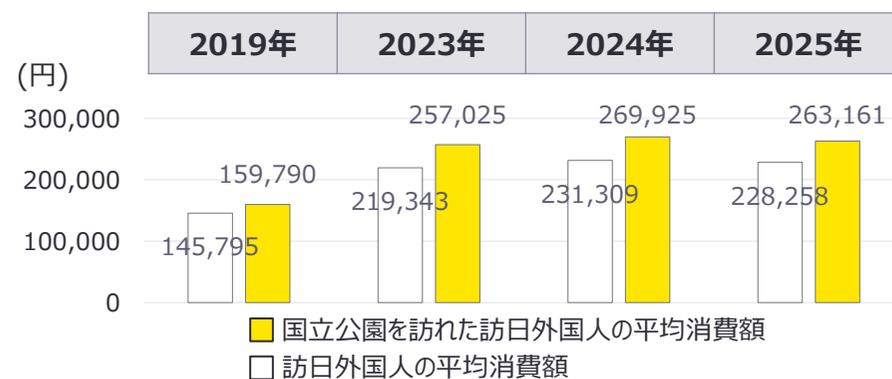
- 2025年は、**全体の24%程度の訪日外国人が国立公園を訪れており、全訪日外国人に占める国立公園来訪者の割合は、コロナ禍前と比較して1.7%割合が増加している**



訪日外国人数	29,855,742	37.8%増	41,134,795
国立公園訪問者数	6,669,131	48.1%増	9,879,202

平均消費額

- 2025年の**国立公園を訪れた訪日外国人の平均消費額は、全訪日外国人の平均消費額より15.3%程度多い**



訪日外国人の平均消費額	145,795	219,343	231,309	228,258
国立公園を訪れた訪日外国人の平均消費額	159,790	257,025	269,925	263,161

※インバウンド消費動向調査 確定値：～2024年、2次速報値：2025年1-9月期、1次速報値：2025年10-12月期

2025年以降は、確定値による推計後、値が変動する可能性あり

※貢献度調査における訪日外国人数は、インバウンド消費動向調査を用いて算出したクルーズ客を除く人数であるため、日本政府観光局（JNTO）が算出した訪日外客数と数値が異なる点に留意

貢献度調査 (2/2)

- 貢献度調査の結果、平均滞在日数は2019年と同等の水準、満足度・再訪意向はコロナ禍前よりも向上した
- 特に、国立公園を訪れた訪日外国人の再訪意向は8割以上と高い

平均滞在日数

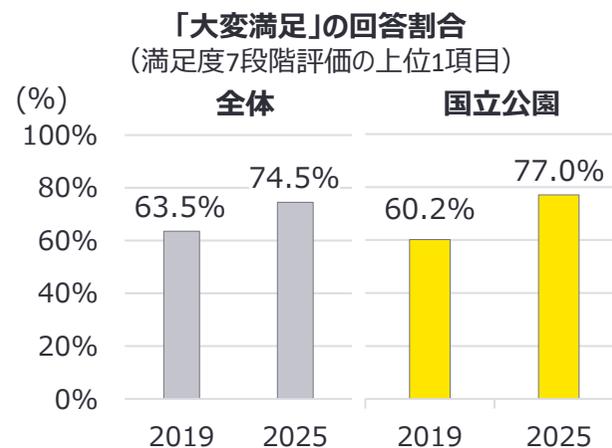
- 訪日外国人全体の平均滞在日数はコロナ禍前から0.22日短縮されているものの、国立公園を訪れた訪日外国人の平均滞在日数はコロナ禍前と同等の水準である



	2019年	2025年	差分
全体	12.93日	12.71日	△0.22日
国立公園	12.36日	12.36日	増減なし

満足度

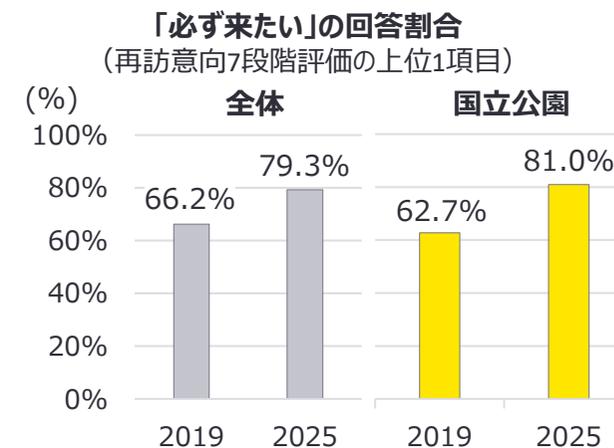
- 2025年に国立公園を訪れ、「大変満足」と回答した訪日外国人は全体よりも2.5%多く、コロナ禍前と比較して16.8%増加している



	2019年	2025年	差分
全体	63.5%	74.5%	11.0%
国立公園	60.2%	77.0%	16.8%

再訪意向の醸成

- 2025年に国立公園を訪れ、日本に「必ず来たい」と回答した訪日外国人は全体よりも1.7%多く、コロナ禍前と比較して18.3%増加している



	2019年	2025年	差分
全体	66.2%	79.3%	13.1%
国立公園	62.7%	81.0%	18.3%

2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

Webアンケート調査 主要指標成果 (1/2)

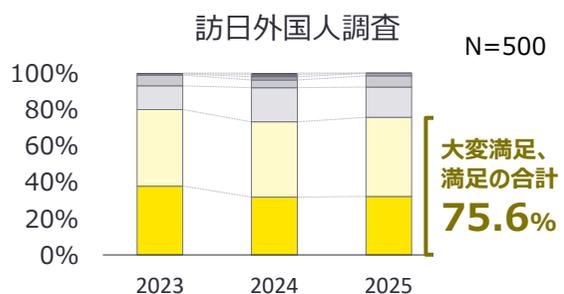
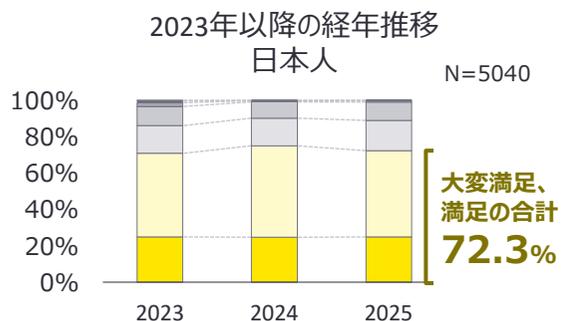
- Webアンケート調査の結果、満足度・認知度・推奨意向はいずれも、2024年と同様の傾向が継続していることが確認できる
- 特に満足度については、日本人・外国人ともに7割以上と、高い水準で安定している

量の指標

質の指標

満足度

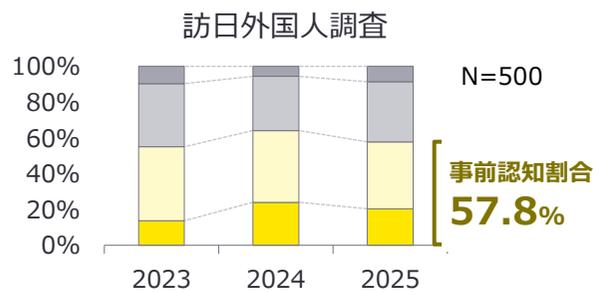
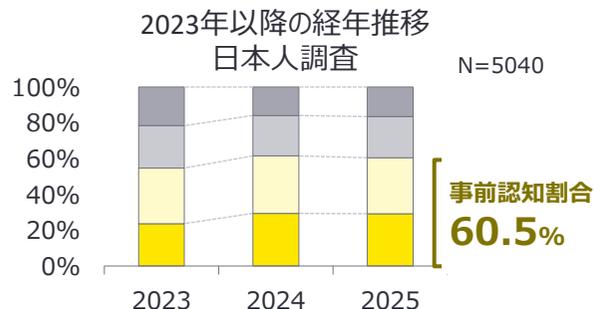
- 日本人調査では大変満足、満足の割合が72.3%、訪日外国人調査では75.6%と高い評価を維持している。



■ 大変満足 ■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 大変不満

国立公園としての認知度

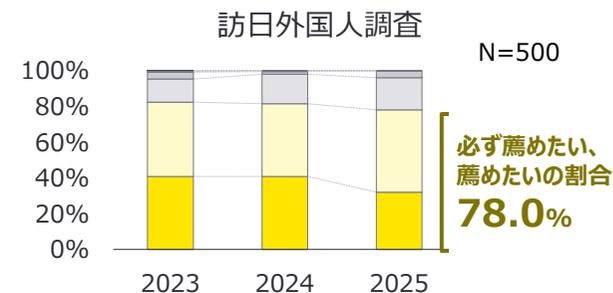
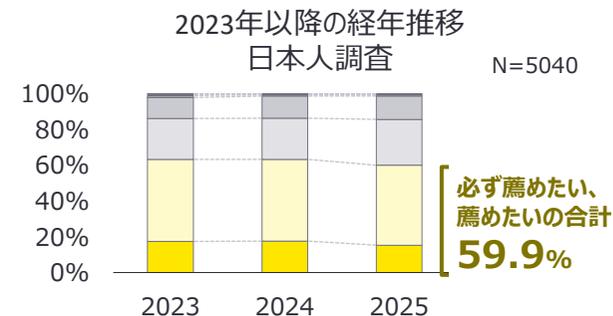
- 訪問地が国立公園であると事前に認知していた割合は日本人、外国人ともに6割前後となっている。



■ 国立公園だと知らなかった
 ■ 訪問した際に、現地の案内サインやガイド、宿の情報などで知った
 ■ 訪問する前に、WebサイトやSNSなどで知った
 ■ 旅行の検討段階から国立公園に訪問することを目的としていた

推奨意向

- 必ず薦めたい、薦めたいと回答した割合は、日本人で約6割、外国人で約8割となっている。



■ 必ず薦めたい ■ 薦めたい ■ やや薦めたい ■ 何とも言いえない
 ■ あまり薦めない ■ 薦めない ■ 絶対薦めない

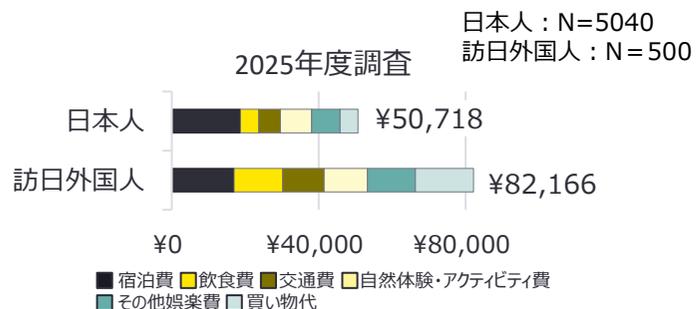
2. 目標の達成状況及び国立公園の貢献度

Webアンケート調査 主要指標成果 (2/2)

- 公園内支出額は、日本人で約5.1万円、訪日外国人で約8.2万円となっている
- 平均泊数とリピーター率は、いずれもコロナ禍からの回復が進み、2024年と同様の傾向が続いている

公園内支出額

- 公園内支出額は、日本人が約5.1万円、訪日外国人が約8.2万円となっており、特に宿泊費以外の項目で大きな差がみられる。

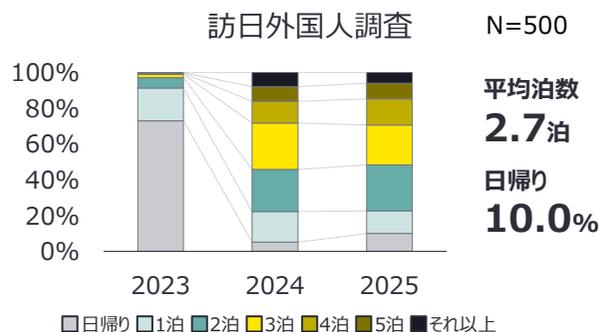
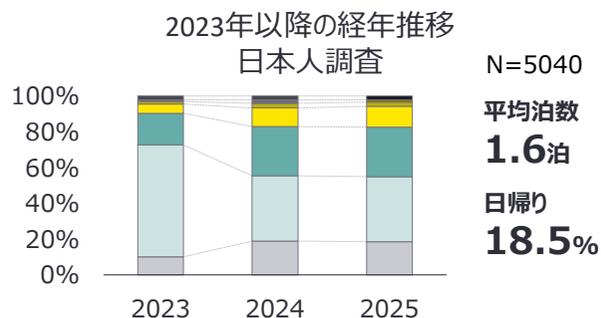


費用項目	日本人	訪日外国人
宿泊費	¥18,655	¥16,921
飲食費	¥5,015	¥13,247
交通費	¥5,894	¥11,274
自然体験・アクティビティ費	¥8,520	¥11,813
その他娯楽費	¥7,710	¥13,059
買い物代	¥4,924	¥15,852
合計 (平均)	¥50,718	¥82,166

※「その他」の支出額は回答者数が少ないため除外

平均泊数

- 平均泊数については、2024年以降はコロナ禍の影響から回復している様子が見える。



リピーター率

- リピーター率は、日本人が約6割、外国人が約4割で推移しており、いずれも安定している
- 日本人では、6回以上訪れるリピーターが3割弱を占めており、特徴的な傾向となっている。

